

あなたの周りですつきたと思う人が「10万円当たった」と言った時、あなたはそれを信じますか？男性は言葉だけで嘘をつくので女性にはそれがだいたいわかると言われます。嘘をつくには、本当のことを言いたい思いを抑制したり、声の高さや表情を嘘の内容と一致させたりしなくてはいけません。だから子どもたちは嘘をつくことはできません。嘘をつくことを私達はいつからするようになったのでしょうか。特に日本人は「そんなことはない」と遠慮の嘘をつきます。これは脳の前頭葉の「記憶」に関係し、そこには「良心」も関係します。最初は嘘をつくことにとっても抵抗がありますが、段々そうでなくなっていってしまうのです。それはなぜか、前頭葉には灰白質と白質という部分があります。灰白質は良心や価値判断を司り、白質は嘘をつくと活性化します。つまり嘘をついていくと良心を司る灰白質が退化してしまうのです。私達は嘘をついたりごまかしたり「あいつ、いなきゃいいのに」という悪い思いとそれとは反対の良心、この瀬戸際（調整）で生きています。世の中を見ていると殺人事件など残忍な事件がたくさん起きています。それを見て「ひどい」と思っているでしょう。しかしあなたも頭の中で似たようなことをしていませんか。私達はそういう思いがあいながらも良心や様々な判断によってそれを抑制しているのです。日本は恥の文化として、自分の優れていることや思っていることを言わないことが美学といわれています。言わなくなっていくということは、思っている本当のことが出ずにそうでない態度で生きる、まさに「二心」なのです。自分の本心が出ないため自分の気持ちをわかってもらえないと病気になる・・・嘘の中でも、私たちが自分を守るためにしている嘘や態度が一番私たちを悪くしている可能性が高いのです。私たちが生きていくうえで一番求めているものは信頼関係です。しかし私たちは、信頼を得たいと言いつつながら信頼を得られるような行動をしているのでしょうか。信じあえるのはお互いが信じられる行動をするからです。信頼は長い積み重ねであり、しかし一瞬にして壊れるものです。だからこそ神様を信じる私たちは表向きばかりの態度で相手に聞こえのよいことばかり言っているはいけません。（創世記3）アダムとイヴが罪を犯し、裸であることを知った時、白質ができました。善悪がわかるようになった時に初めて、人は責任転嫁をしたり自分を守ろうとしたりすることが始まったのです。白質が増え嘘をつき、責任転嫁が多くなると結果人間関係が悪くなる可能性が高いのです。だからこそわたしたちが築くべきなのは真実な生き方であり、本当に信頼を得たいのなら二心ではいけません。誰にでもよい顔をし、みんなに好かれることはよいことかもしれませんが、二面性で得ている信頼関係ならそれは偽りでありいざという時に相手に偽りをもって応えられる可能性が高いのです。事実、イエス様は全ての人にいい顔をしたわけではありません。正しくない人には厳しかったのです。妥協して生きるべきではありません。小さな嘘が膨らむと大きないのちを失うほどの問題に膨らむ可能性があるのです。真実に生きるために①流されて決断しない。色々な言葉があなたを抑制するでしょう。しかし私達は御言葉と祈りによって自分で決断していかなくてはいけません。相手がいいだろうと思う決断を出さないでください。あなたが本当にすべきだと思う決断をするべきです。あなたがあなたの意志でどういうビジョンで進んでいくかにしたがって決断すべきです。悪魔のせいにしてもっと罰せられたのはイヴでした。信頼関係を得たいと思うならあなた自身が御言葉に立ち、良心にしたがって決断をしてください。（詩篇120：1～3）ダビデのまわりにも色々なことを言う人がいました。私達はそれから自らを守り自分の正しさにしたがって結論を出すべきです。良心を用いないとあなたの良心は退化します。最初が肝心です。自分で決断をしてください。②言い訳をしない。「だって」「でも」が始まるとイヴです。（詩篇12：1～5）あなたのまわりの言い訳や欺きが切られて、あなたの周りが信頼関係になるように祈ってください。「私はこう考える。だからこう決断する。それに対して誰に何を言われても文句はない」ここまで自信をもって生きてください。「だって」ばかりいっていると最終的にはその日暮らしになってしまいます。③神によって新しくされる。（エペソ4：22～）信頼関係がほしいのは私たちが1つの体だからです。心を1つにしたい、思いを1つにしたい、そういう思いがあります。だからこそ私達は各々、真実を語らなくてはいけません。古いままでは新しくなれません。イエス様はあなたの古いものを来て十字架にかかりました。彼は、あなたの人を欺く言葉を人々から浴びせられ、心に思う汚い言葉を槍で刺され、むちで打たれました。委ねるとはそういうことです。あなた自身が正しく生きるために今自分がしている誤りがなんなのか判断しない限り、祈っても意味ありません。相手に対して正しいということをする努力をするためにこれまで積み重ねた判断を神にあって改めなくてはなりません。良心は人によって違い、あなたの良心が本当に正しいかどうかわかりません。あなたのこれまでに得た良心では信頼は得られません。正しく生きた本当のモデルをあなたの中におくべきであり、それがあなたの良心であるべきです。その良心を共通に得て、同じ価値観に立たない限りお互いの人間関係の中で信頼関係は得られません。あなたの判断基準では人は動かないからです。聖書に基準をおき、イエス様ならどうするかとを考えてみてください。判断基準の誤りは記憶からきます。記憶があるから本当にしなくてはならない正しい行動ができないのです。これまでの古い自分の記憶をすて今日から新しく、そして真実に生きていきましょう。